

令和4年度(2022年度)当初予算案(一般会計)の概要

歳入歳出予算総額：67億2,900万円

(対前年度7億3,000万円(12.2%)増)

(単位：百万円)

| | H30(2018年) | R1(2019年) | R2(2020年) | R3(2021年) | R4(2022年) |
|-----------------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| 当初予算額 (うち中心核整備分) | 5,523 | 6,424 | 6,313 | 5,999 | 6,729 (818) |
| 対前年度伸び率 (中心核整備分除く) | ▲1.1% | 16.3% | ▲1.7% | ▲5.0% | 12.2% (▲1.5%) |

「活力と安心、新時代に希望かなえるまちづくり」予算

令和4年度当初予算案については、「明るく元気で活力あふれる強いまち竜王町」、「次世代に誇れるまち竜王町」づくりを柱とし、第六次総合計画で定めた10年後のあるべき姿「若者も暮らしたい希望かなえる輝竜の郷～心弾む新時代へのチャレンジ～」の実現に向けた施策を推進していくことに対し予算を重点配分しています。なお、令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による法人町民税収の下振れを見込んでおりますが、将来を見据えた健全な財政運営を行うため、財政規律を守りながらも基金等の財源を活用し、コンパクトシティ化構想の実現等、将来に向けた投資を積極的に行う予算としており、一般会計の歳入歳出予算総額を67億2,900万円(対前年度12.2%増)としています。

これまでのまちづくりの取組および重点施策プロジェクトの取組を継続しつつ、第六次総合計画の基本施策である『豊かさ』『やさしさ』『つながり』の3分野の重点プロジェクトを推し進めることで将来像の実現を目指していきます。また、今後も加速する超少子高齢化や人口減少を見据え、持続的な発展を目指した効果的な施策の展開を図り、特に、コンパクトシティ化構想の実現に向けた中心核整備については最優先事項として、その実現に向けて重点的かつ着実に推進することとします。

活力あふれるまちづくり～発展・進化を生み出す豊かさの創造～

1 竜王町コンパクトシティ化構想実現に向けた中心核の整備

① 竜王町コンパクトシティ化構想「交流・文教ゾーン」の造成・道路改築実施設計、用地取得等 5億9,219万円

竜王町コンパクトシティ化構想に基づく中心核の整備において、先導的事業である「交流・文教ゾーン」の整備について、事業地造成・道路改築の実実施設計を行うとともに、用地取得を行います。

② 竜王小学校の移転新築に向けた準備 2億2,097万円

竜王小学校の移転新築に向け、令和3年度に策定した竜王小学校建築基本計画を踏まえ、小学校建設基本設計および実施設計を行います。

2 竜王らしい農村環境の整備

①農業振興地域整備計画の変更 457 万円

町全体の土地利用計画等を踏まえ、農業振興地域整備計画の全体見直しを行います。

②魅力ある農業の創生 450 万円

米・野菜・果樹・近江牛等の魅力ある農畜産物を真のブランドとして創生するため町独自に支援をします。

3 道路ネットワークの強化と地域交通の充実

①橋梁の修繕工事と道路交通網の長寿命化 1 億 1,400 万円

岳川橋の修繕工事や町道の舗装修繕等により長寿命化を図ることで、通行の安全を確保します。また、現在協議を進めている国道 8 号と接続する町道整備について、現地測量、詳細設計等を行います。

②幹線交通の維持・確保 2,433 万円

コミュニティバス（八幡竜王線）の運行委託に対する補助および生活交通路線（岡屋線）維持に対する補助を継続します。

③地域内交通の維持・確保 2,179 万円

子育て支援や路線バスの利用促進を目的とした通学定期補助および夜間特別便を継続します。また、町内の各拠点をつなぐ「チョイソコリゅうおう」については、令和 4 年 4 月から本格運行を開始します。

4 町の魅力発信による新たな企業誘致の推進と定住の促進

①ふるさと納税の推進 7,970 万円

ふるさと納税に対する町特産品の返礼により、町内商工業者の振興、町の知名度向上、観光振興等につなげます。

②立地企業との関係強化と新たな企業誘致の推進 316 万円

立地企業との関係強化と新たな企業の誘致を推進し、地域経済の活性化を図ります。また、町有地における新たな土地利用の可能性等について具体的に検討を進めます。

③若者も暮らしたくなる定住のための住まい助成 1,300 万円

若者の定住を促進するため、住宅の新築およびリフォームならびに家賃への助成を行うことで定住化を図ります。また、町有地を活用した住宅地確保に向けた検討も継続します。

安心して暮らせるまちづくり ～次世代に引き継げるやさしさの創造～

1 安心して子どもを産み、育てられる環境づくりと子育て支援等の充実

①放課後児童の健全な育成 1 億 4,732 万円

学童保育所 5 クラスを運営し、昼間就労等で保護者が不在の児童に対し安心して安全な育成の場を提供します。令和 4 年度は学童保育所設置に係る西幼稚園跡施設の改修工事を行います。

②小中学生の医療費無償化の継続 2,921 万円

小学校から中学校卒業までの医療費無償化を継続します。（平成 29 年 10 月からの実施）

③軽自動車の購入助成 154 万円

子育て世帯の支援を目的とした軽自動車購入の助成、また、高齢者の安全確保を目的とした先進安全性を備えた軽自動車購入に対する助成を行い、あわせて地域経済の活性化を図ります。

2 魅力ある学校・園づくり

①きめ細かな教育の推進 6,479 万円

町費による各種支援員等を町内校園に配置し、一人ひとりに寄り添うきめ細かな指導や支援を充実します。また、更なる就学前教育・保育の充実と保護者のニーズに応えられるよう、令和4年度から町立幼稚園を認定こども園へ移行します。

②生きて働く基礎学力の定着と系統的英語教育の推進 745 万円

児童生徒の基礎学力の定着に向けた指導力の向上、また、「徹底反復学習」に取り組み、集中力の向上や脳の活性化を図り総合的な学力の向上をめざします。さらに、英語教育については、認定こども園、小学校、中学校の系統性を一層重視し、英語に慣れ親しむ機会を拡大するなど更なる充実を図ります。

③子どもの健やかな成長を支援する家庭教育の充実 100 万円

国の『「早寝早起き朝ごはん」推進校事業』を受託し、「家庭の教育力向上」を社会教育の中心に据え、積極的に推進することにより、子どもたちの学ぶ力の向上と規則正しい生活習慣の確立をめざします。

3 スポーツと健康づくりの推進

①滋賀国民スポーツ大会に向けたスポーツライミングの普及促進 5,190 万円

令和7年度に開催される滋賀国民スポーツ大会では本町がスポーツライミングの競技会場地となることから、町民のスポーツ振興に対する機運醸成を図ることを目的に、ボルダリング施設の整備を進めるとともに、小学生ボルダリング体験教室や竜王町クライミングアンバサダー（広報大使）による魅力発信に加え、滋賀国スポ大会への出場をめざす地元出身選手の育成強化を行います。

②りゅうおう健康ベジ7（セブン）チャレンジの推進 353 万円

健康課題である糖尿病および高血圧症などの予防のため、健康いきいき竜王 21 プランに基づき、地域や関係機関と協働して取り組み、健康寿命の延伸を図ります。また、令和6年度からの新たなプラン策定に向け基礎調査を行います。

4 自然災害に対する危機管理および危機対応力の向上と強靱化の推進

①耐震改修促進計画の策定 650 万円

令和2年度末に滋賀県既存建築物耐震改修計画が改訂されたことから、これとの整合を図るため、竜王町耐震促進計画の見直しを行います。

②環境基本計画および地球温暖化対策実行計画の策定 500 万円

2050年度までに温室効果ガス排出量をゼロにする「カーボンニュートラル」に向け、竜王町環境基本計画等の見直しを行います。

③日野川改修・国道8号整備促進の強化 100 万円

日野川については、抜本改修のための河川整備計画変更が早期に実施されるよう加速化を図るため、また、国道8号については、東近江区間を早期に調査区間に指定されるよう加速化を図るため、国・県要望を強化します。

みんなで進めるまちづくり ～新たな時代に対応したつながりの創造～

1 地域コミュニティの活性化と協働の推進

① 持続可能な地域コミュニティの推進 2,463 万円

多様な参画によるこれまでの地域コミュニティの維持・活性化を図るとともに、本町にふさわしい新たな活動組織のあり方を検討します。また、一般財団法人自治総合センターによる宝くじの受託事務収入を財源としてコミュニティ活動助成を行います。

② 自治会活動への支援 2,657 万円

地域住民の自主性および協調性の向上ならびに個性的で魅力ある地域の形成と協働によるまちづくり意識の向上を図るため、自治会が行う事業に対し助成を行います。また、地域活動の拠点となる自治会館の建設または購入のための経費に対する補助を行い、地域活動の活性化を図ります。

2 先端技術の利活用

① 竜王町防災行政情報システムの運用管理 892 万円

災害時の迅速な避難行動等につなげるため、令和2年度に整備した防災行政情報システムの公式アプリ『しるみる竜王』等を活用し、町民と行政の双方向による情報発信・情報共有を図ります。

② 先端技術を活用した行政サービスの提供 1億3,497 万円

行政事務へのRPA、AIの活用による定型作業の負担軽減、行政手続のオンライン化等を推進することで業務効率化、町民サービスの向上を図ります。また、効率的で安定した行政サービス、災害に強い行政事務に向け、引き続き県内6町による滋賀県町村行政情報システム共同利用事業（6町クラウド事業）に取り組みます。

③ 農業委員会農地パトロール用タブレットの整備 119 万円

農地パトロール等の作業効率の向上を目的に、国費を活用してタブレットを整備します。

④ マイナンバーカード普及促進用タブレット等の整備 112 万円

国費を活用しマイナンバーカード申請時に使用するタブレットを整備することで、マイナンバーカードの申請機会を広げ、交付率の向上を図ります。

新型コロナウイルス感染症に対する主な予算

① ワクチン接種事業 1,029 万円（別途 前年度繰越分 5,465 万円）

ワクチン接種体制確保と、1回目、2回目の未接種者、5歳～11歳、また3回目のワクチン接種を円滑に実施します。

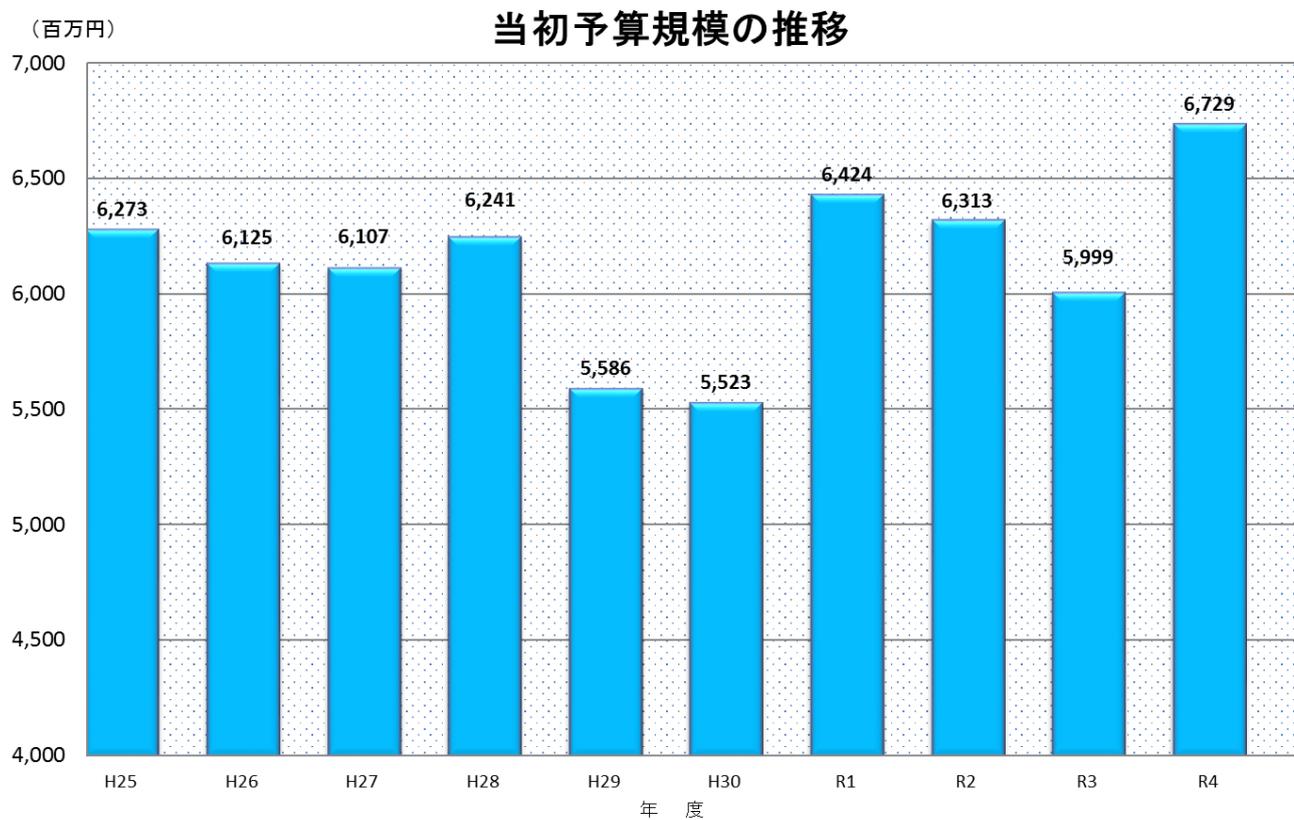
② 県制度融資「セーフティネット資金」の利用時における利子補給 400 万円

売上等が減少している中小企業の資金繰りの支援策として、県制度融資「セーフティネット資金」の利用時における利子補給を行います。

③ 保育士等处遇改善加算 462 万円

国の経済対策の趣旨を踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対応が必要な保育現場において、処遇改善に必要な費用を加算します。

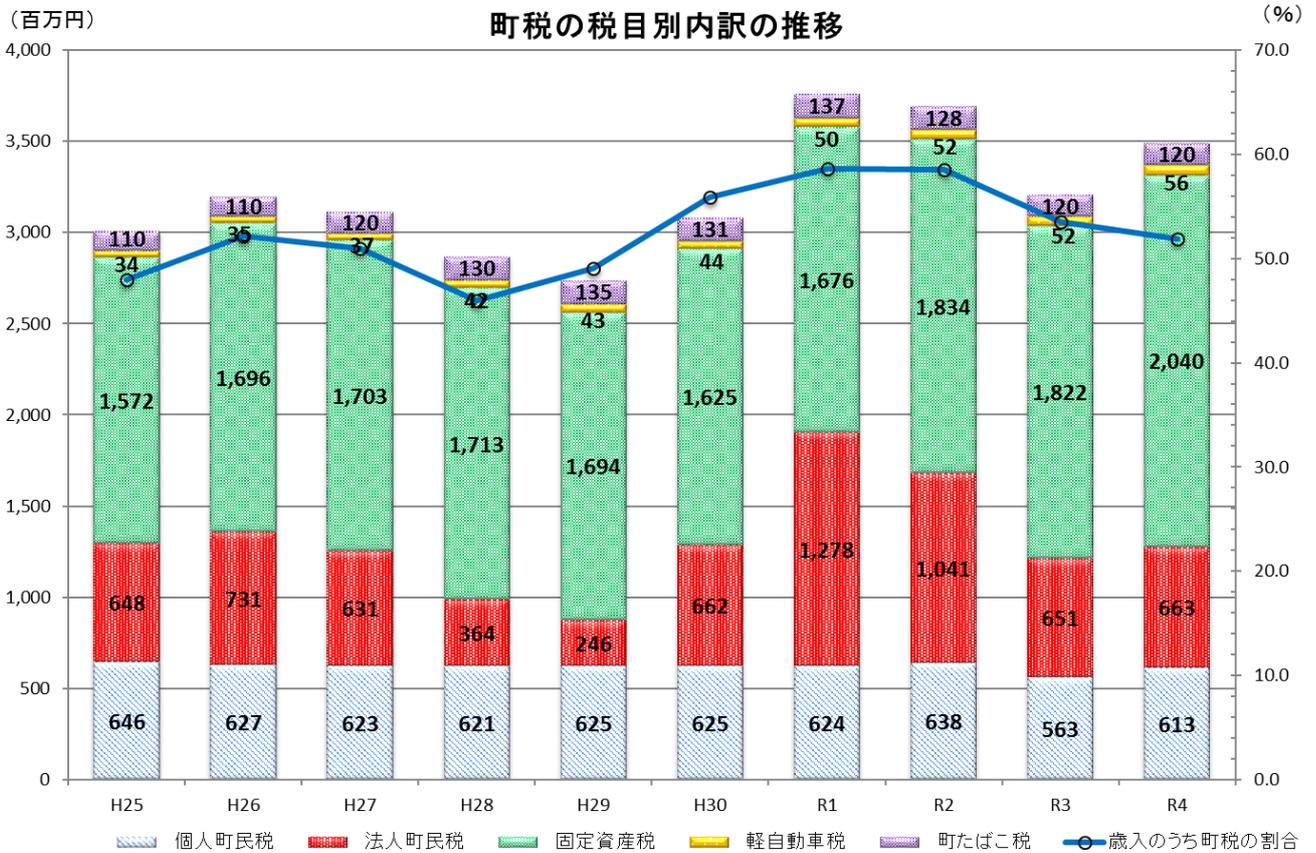
歳入においては、町税を 34 億 9,253 万円、対前年度 2 億 8,427 万円 (8.9%) の増収を見込んでいます。これは、町税のうち法人町民税については引き続き新型コロナウイルス感染症等の影響により令和 3 年度当初予算ベースと同程度の金額を見込んでおりますが、固定資産税については主要事業者の設備投資による償却資産の増額が見込まれることから 2 億 1,790 万円の増としました。この影響等により、普通交付税および臨時財政対策債については皆減となり、令和 3 年度は交付団体でありましたが、令和 4 年度は再び不交付団体となる見込みです。このような状況において、依然として厳しい財政状況であることから、歳出削減および歳入確保に努めてもなお不足する所要の財源のため、財政調整基金から 3 億 4,496 万円を、また、コンパクトシティ化構想に基づく竜王小学校移転新築事業に対しては竜王小学校改築基金から 6,000 万円を取り崩すこととしました。



[歳入]

町税 34 億 9,253 万円（2 億 8,427 万円、8.9%増）

法人町民税については引き続き新型コロナウイルス感染症等の影響により、令和3年度当初予算ベースと同程度の金額を見込んでおりますが、固定資産税については主要事業者の設備投資による



償却資産の増額が見込まれることから2億1,790万円の増としました。

法人事業税交付金 1 億 2,000 万円（4,000 万円、25.0%減）

地方法人特別税・譲与税制度の廃止に伴う法人町民税法人税割の減収分の補てん措置として、法人事業税の一部が県から交付されるもので、県の試算数値も参考にして減額しました。

地方交付税 3,000 万円（3,200 万円、51.6%減）

普通交付税は平成30年度から令和2年度まで不交付であり、令和3年度は町税の減収等を受けて交付団体となりましたが、令和4年度は固定資産税等の増額が見込まれることから再び不交付団体となる見込みです。なお、特別交付税は令和3年度と同額の3,000万円を計上しました。

国庫支出金 7 億 245 万円（7,922 万円、12.7%増）

新型コロナウイルスワクチン接種に係る国庫支出金4,526万円、農林公園施設整備工事の完了に係る農山漁村振興交付金3,089万円の減を見込む一方で、中心核整備に対する社会資本整備総合交付金5,952万円、学童保育所設置に係る西幼稚園跡施設の改修工事に対する子ども子育て支援整備交付金4,776万円、重層的支援体制整備事業費補助金3,844万円の増としました。

県支出金 4 億 8,357 万円（3,252 万円、7.2%増）

衆議院議員総選挙に係る委託金1,110万円、国営造成施設管理体制整備促進事業補助金551万

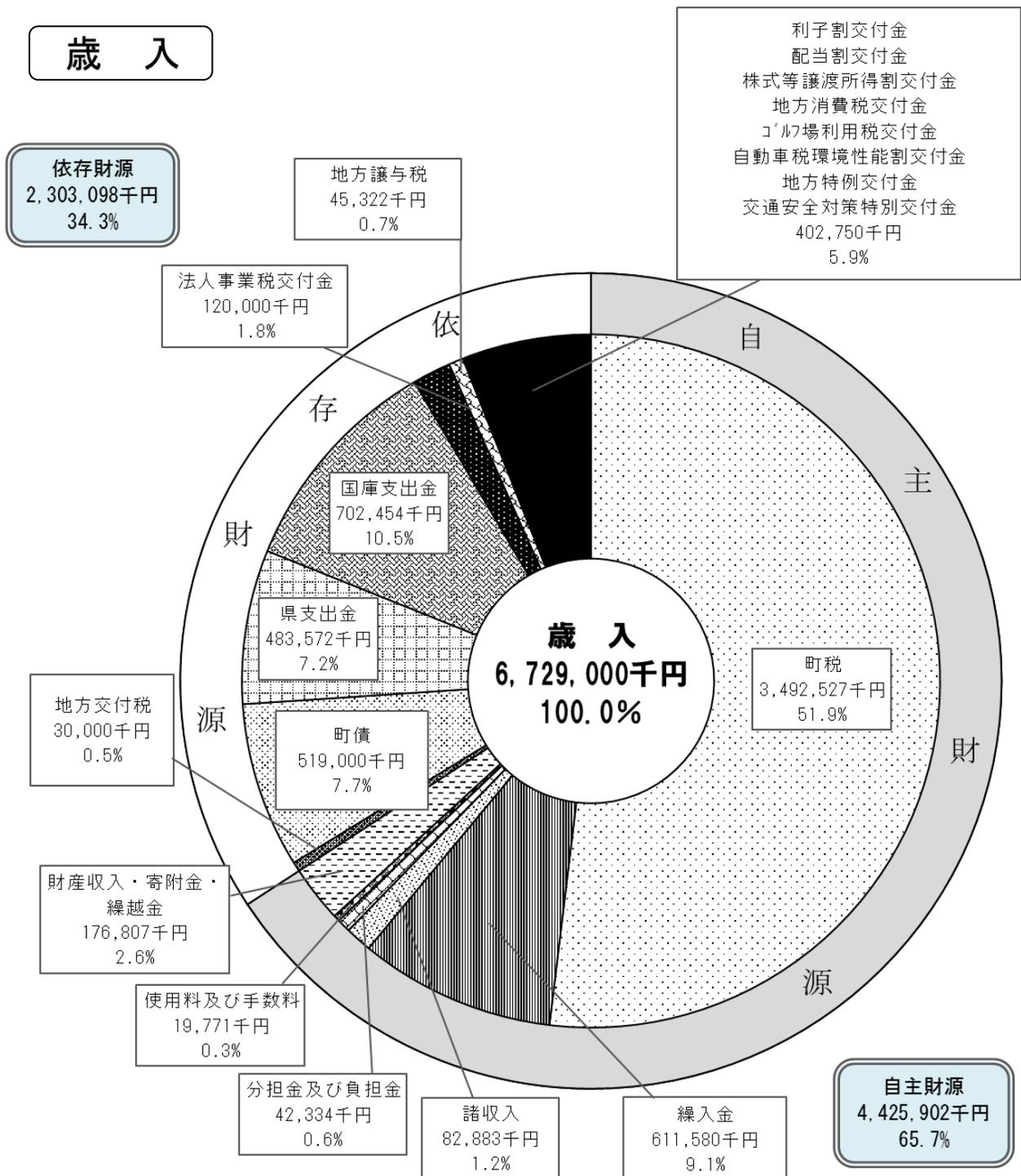
円の減を見込む一方で、参議院議員通常選挙および滋賀県知事選挙に係る委託金 2,065 万円、重層的支援体制整備事業費補助金 861 万円、治山事業に対する補助金 630 万円、学童保育所設置に係る西幼稚園跡施設の改修工事に対する子ども子育て支援整備交付金 478 万円の増としました。

繰入金 6 億 1,158 万円（2 億 1,457 万円、54.0%増）

竜王町有線放送施設管理等基金繰入金 3,786 万円の減を見込む一方で、財政調整基金繰入金 1 億 8,082 万円、竜王町立竜王小学校改築基金繰入金 6,000 万円、未来につなぐふるさと交龍基金繰入金 1,000 万円の増としました。

町債 5 億 1,900 万円（1 億 8,810 万円、56.8%増）

臨時財政対策債の発行がないことから 1 億 7,500 万円、竜王町有線放送設備撤去工事の完了に係る 4,280 万円の減を見込む一方で、コンパクトシティ化構想に基づく中心核整備に係る町債について 4 億 2,310 万円の増としました。



[歳出]

《目的別》

議会費 7,490万円（126万円、1.7%減）

人件費の減等により減少しました。

総務費 16億520万円（5億2,151万円、48.1%増）

竜王町有線放送設備撤去工事の完了により減少したものの、中心核整備に係る用地取得費、交流・文教ゾーン造成等実施設計業務委託料等が増加しました。

民生費 17億7,797万円（1億586万円、6.3%増）

介護保険特別会計繰出金、学童保育所建設工事に係る設計業務委託料が減少したものの、学童保育所設置に係る西幼稚園跡施設の改修工事、自立支援給付費、重層的支援体制整備に係る人件費等が増加しました。

衛生費 4億8,561万円（394万円、0.8%減）

八日市布引ライフ組合（衛生）負担金、環境基本計画等策定業務委託料、旧医科診療所解体等工事設計業務委託料が増加したものの、令和4年度の新型コロナウイルスワクチン接種事業については、一部前年度の繰越明許費において対応することから委託料が減少しました。

農林水産業費 2億9,508万円（5,055万円、14.6%減）

農業振興地域整備計画変更業務委託料、鏡山林道における治山工事が増加したものの、農林公園施設整備工事の完了等により減少しました。

商工費 8,945万円（1,179万円、11.6%減）

産業振興奨励金、ふるさと竜王夏まつり実行委員会補助金等が減少しました。

土木費 6億3,260万円（5,285万円、9.1%増）

橋梁耐震修繕工事が減少したものの、滋賀国民スポーツ大会関連施設であるボルダリングウォールの整備、町道道路改良・舗装他工事、総合運動公園長寿命化計画策定業務委託料、耐震改修促進計画（変更）策定業務委託料等が増加しました。

消防費 2億6,172万円（70万円、0.3%減）

消防団員報酬、防災行政情報システム保守点検業務委託料等が増加したものの、南部地区防災センター解体撤去工事設計業務委託料、消火栓設置工事負担金等が減少しました。

教育費 9億6,030万円（1億8,070万円、23.2%増）

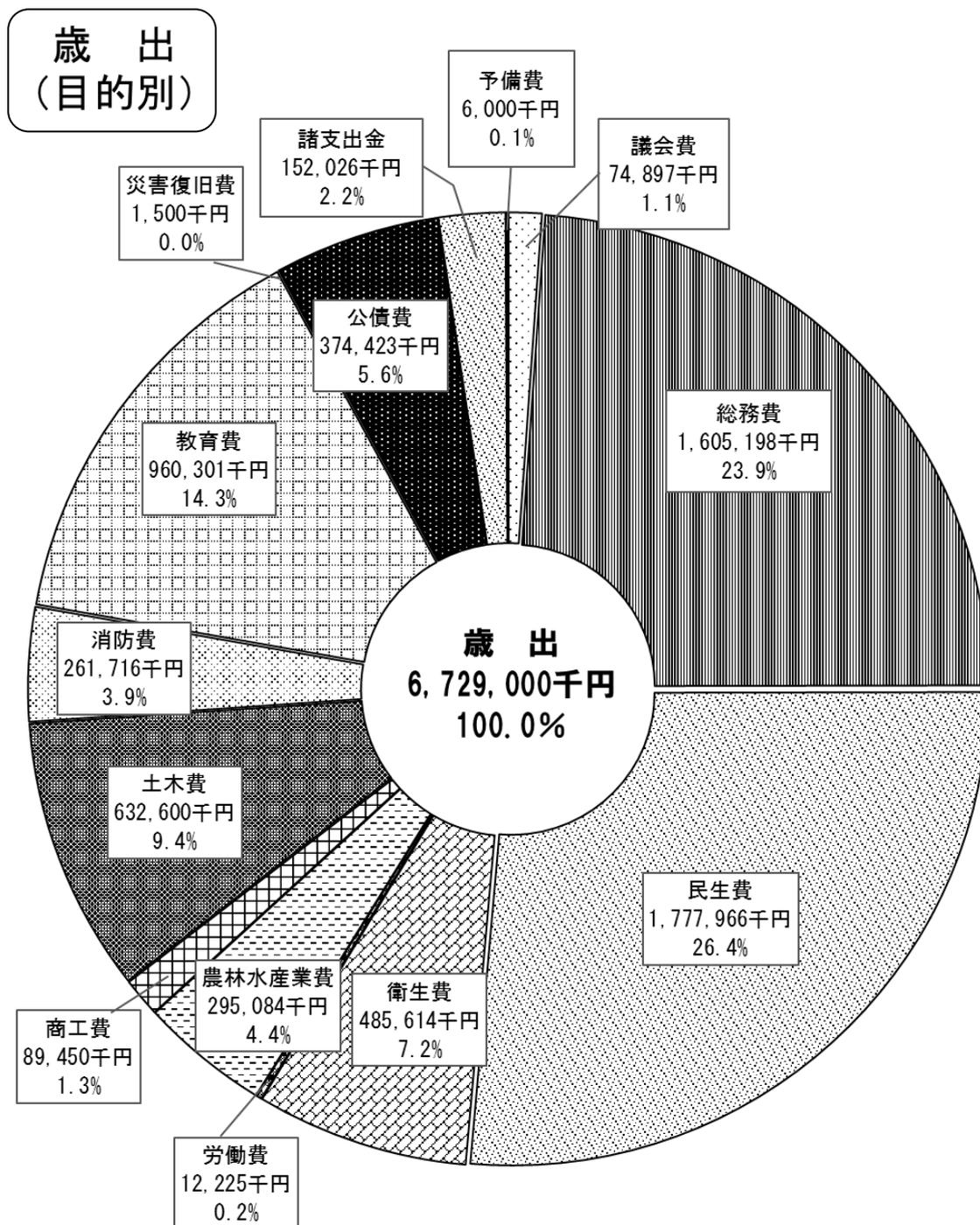
人件費が減少したものの、竜王小学校建築設計業務委託料、中学校のパソコン借上料等が増加しました。

公債費 3億7,442万円（2,961万円、7.3%減）

償還元金および償還利子が減少しました。

諸支出金 1億5,203万円 (3,301万円、17.8%減)

竜王町立竜王小学校改築基金積立金等が減少しました。



《性質別》

人件費 15億5,295万円 (1,692万円、1.1%増)

重層的支援体制整備に係る人件費等が増加しました。

物件費 13億3,083万円 (2億4,268万円、22.3%増)

新型コロナウイルスワクチン接種委託料、電算管理用備品等が減少したものの、竜王小学校建築設計業務委託料、交流・文教ゾーン造成等実施設計業務委託料、交流・文教ゾーン土質調査業務委託料等が増加しました。

扶助費 8億9,485万円（540万円、0.6%増）

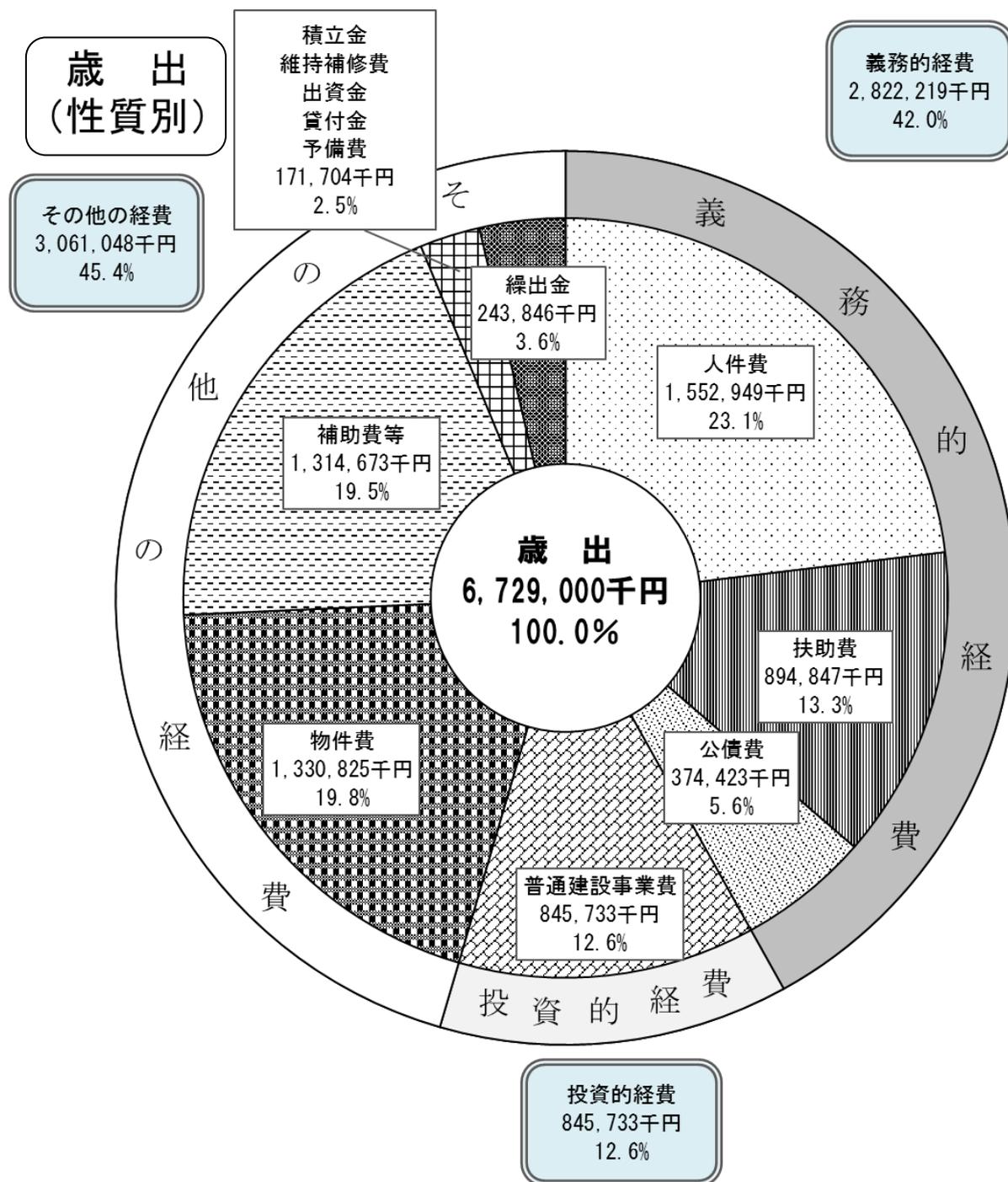
福祉医療扶助費、児童手当等が減少したものの、自立支援給付費が増加しました。

補助費等 13億1,467万円（3,119万円、2.4%増）

産業振興奨励金、国営造成施設管理体制強化支援事業補助金、地域子育て支援拠点事業委託料等が減少したものの、コミュニティ助成事業補助金、八日市布引ライフ組合（衛生）負担金、自治会館整備事業補助金等が増加しました。

普通建設事業費 8億4,573万円（5億1,132万円、152.9%増）

竜王町有線放送設備撤去工事の完了、農林公園施設整備工事の完了により減少したものの、中心核整備に係る用地取得費、学童保育所設置に係る西幼稚園跡施設の改修工事、滋賀国民スポーツ大会関連施設であるボルダリングウォールの整備等により増加しました。

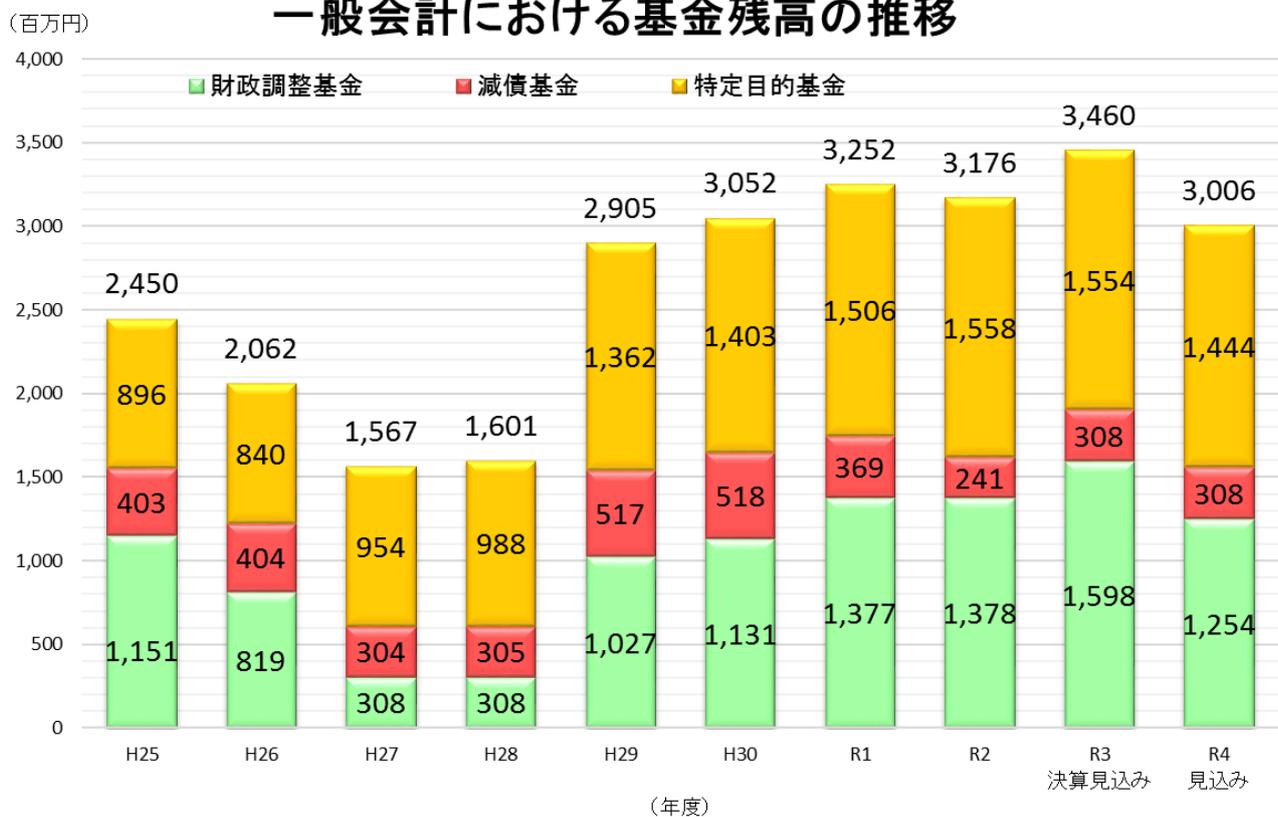


[基金残高見込]

令和3年度一般会計予算は、町税について新型コロナウイルス感染症の影響等により令和2年度から大幅に減収すると見込んでいたところですが、実際の減収幅が想定よりも少なくなる見込みであることから、財源不足分として計上していた財政調整基金の繰入れを取りやめ、同基金へ約2億円の積立てを予定しています。

令和4年度一般会計当初予算案については、中心核整備等に伴う財源として、また、普通交付税が交付されない見込みであることから3億4,500万円を取り崩すこととしています。これにより、令和4年度末で同基金の残高は12億5,400万円程度になる見込みです。また、その他の特定目的基金について様々な行政課題に対応するため2億6,100万円の繰入れを予定しています。なお、未来につなぐふるさと交産寄附金に1億5,000万円の積立てを予定しており、令和4年度末のその他特定目的基金の残高は14億4,400万円程度になると見込んでいます。

一般会計における基金残高の推移

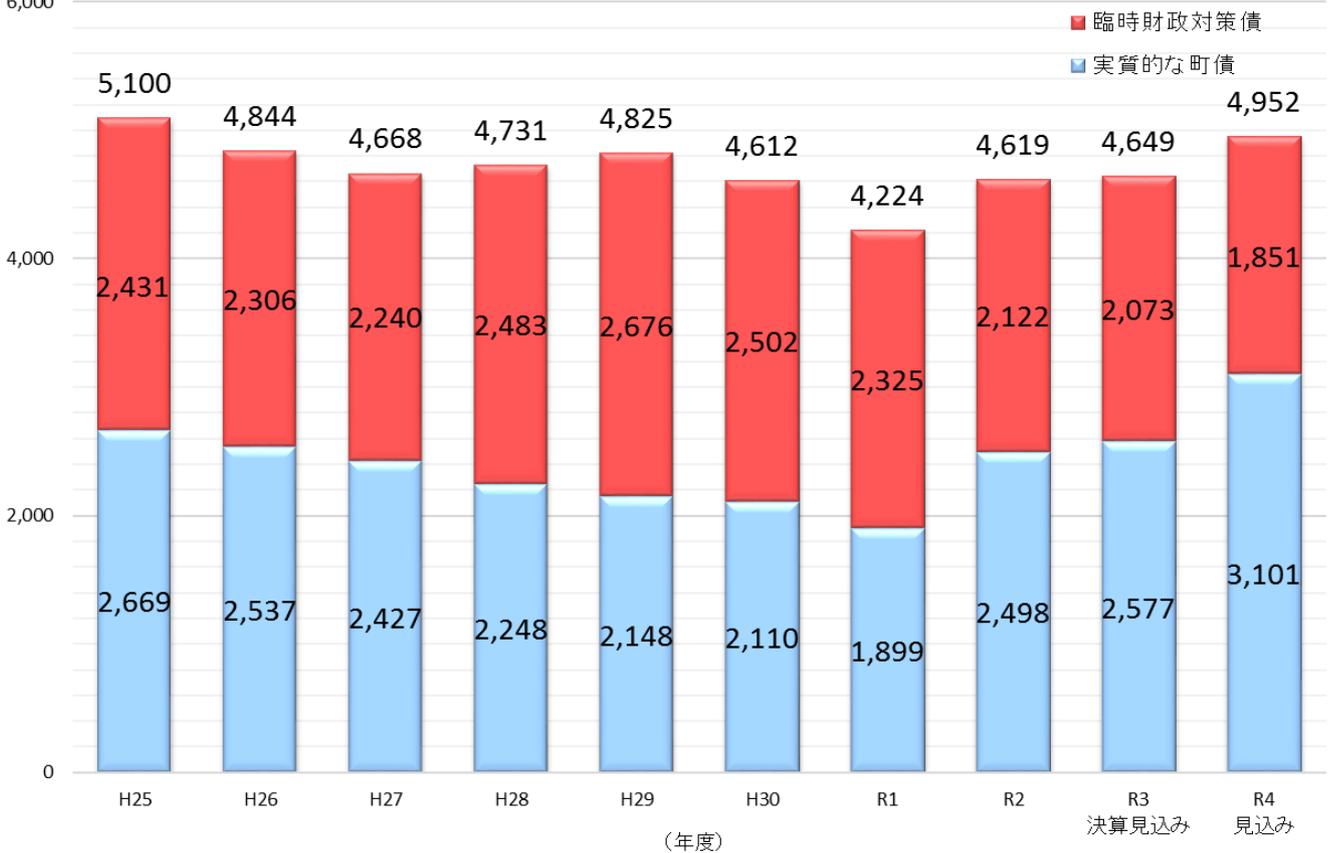


[町債の発行および残高見込]

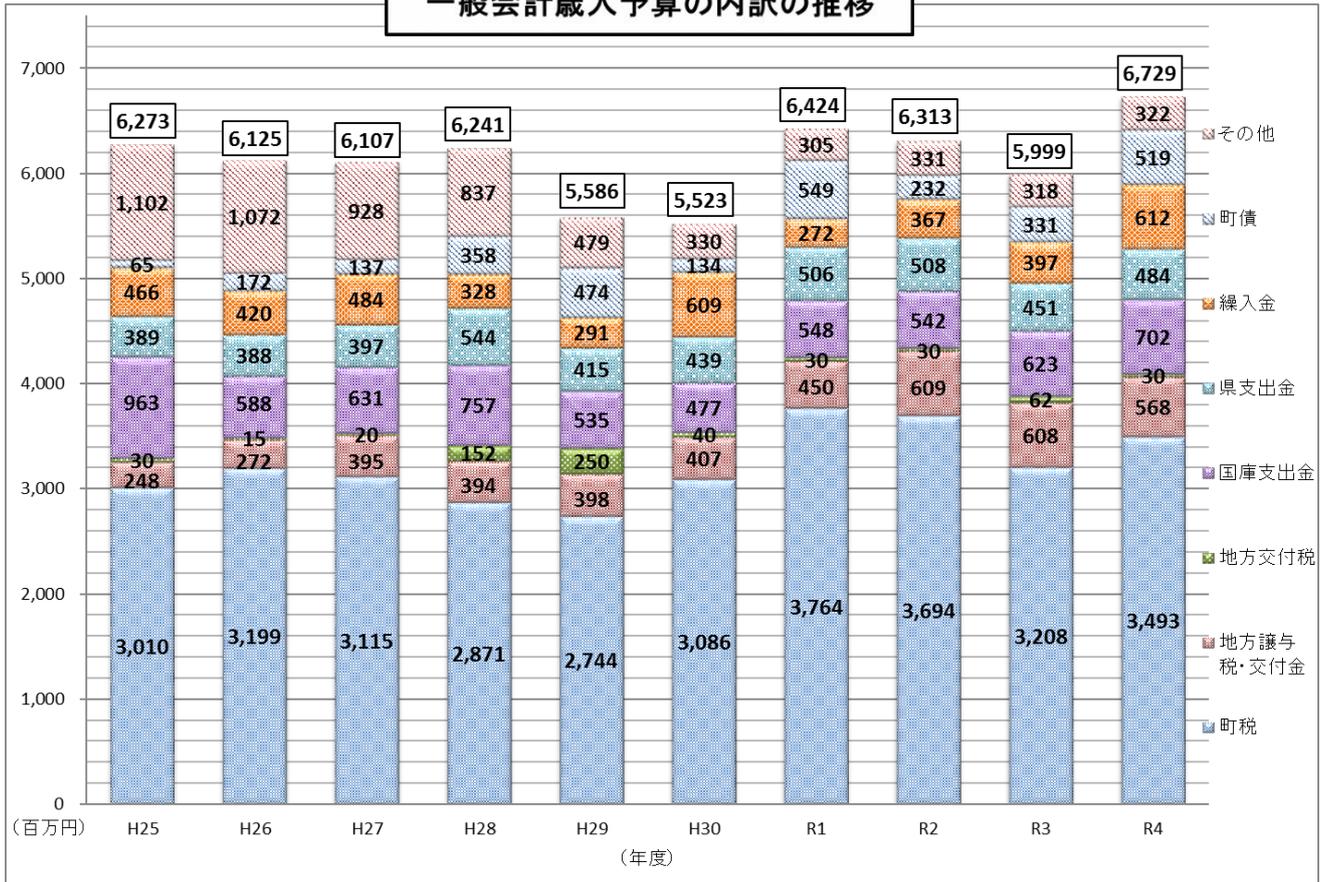
町債発行額は、5億1,900万円で前年度当初予算と比べると1億8,810万円（56.8%）の増と
しています。この主な要因は、令和4年度は臨時財政対策債の発行を予定していないものの、コン
パクトシティ化構想に基づく中心核整備に係る町債の発行を予定しているためです。また、令和
4年度末の町債残高は49億5,200万円で、対前年度6.5%増となる見込みであり、これは令和4年
度中に町債を発行する分と国の補正予算による令和3年度からの繰越事業の追加発行分を含めた
増額を見込むことによるものです。

(百万円)
6,000

一般会計における町債残高の推移



一般会計歳入予算の内訳の推移



一般会計歳出予算の内訳の推移

